

# スタート台について 壁画プロジェクト

## —台湾壁画隊事前訪問記

垂水英司



日	時間・移動	行事	宿泊
2012年 3月25日(日)	10:05 台湾発		
	14:15 仙台空港	出迎え	
			石巻
3月26日(月)	AM	打合	
	AM	現地と被災地視察	
			石巻
3月27日(火)	AM	副市長面談 及び 打合	
	PM	訪問 記録映画 視察	
		交流会	石巻
3月28日(水)	マイクロバス	女川、南三陸、	
		長洞	
		大槌	大槌
3月29日(木)	マイクロバス	仙台へ	
	16:15 仙台空港	見送り	
	18:55 台湾着		

### 参加者(敬称略)

台湾：  
 廖嘉展 新故郷文教基金会 理事長  
 顔新珠 同 執行長  
 蔣耀賢 白屋芸術村 運営長  
 商毓芳 同 執行長  
 李家綺 同工作人  
 李安慈 同元工作人

被災地市民交流会 垂水英司

石井修

小林郁雄

藤岡李華子 ハープ奏者。3月台湾ペーパードームで演奏会開催

石巻 青池憲司 映画監督

通訳者： 申育誠 新故郷基金会在が依頼した東北大学留学生

林亭儀 新故郷基金会在が依頼した仙台在住者

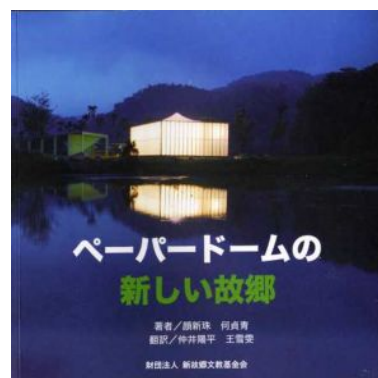
同行者： スペイン・カタロニア国際大学生 4名

## 新台湾壁画隊 東北訪問

3月25日 到着

午後2時15分到着予定の台湾組一行を迎えるため、ハープ奏者の藤岡李華子さん、通訳の東北大学大学院後期博士課程申育誠さんと、私の3人がそれぞれ仙台空港へ向かう。藤岡さんは、長年台湾でハープの指導に当たられた方で、この3月11日には新故郷のペーパードームでチャリティ演奏会をしてきたばかり。2時過ぎ国際線到着出口付近で初めて出会った3人が紹介しあっていると、ほどなく台湾組が現れた。新故郷の廖嘉展さん、顔新珠さん、白屋芸術村の蔣耀賢さん、商毓芳さん、李家綺さん、李安慈さんの6人。手に手に重そうな荷物を携えている。「やーやー」「ニーハオ」。

さっそく「ペーパードームの新しい故郷」の本を手渡される。「あー、出来ましたね」。これは今年増補改訂された「紙教堂 PaperDome 新故郷」の日本語版で、完成を心待ちにしていたものだ。旧版の翻訳は日本側が担当し、台湾で編集、出版したもの。刷り上がったばかりのホヤホヤを、とりあえず30冊東北訪問のお土産に持ってきてもらった。これとは別に250部が今船便で日本へ向かっている。4月10日頃には野田北に到着するはずだ。「太田さーん、雪斐さーん、出来ましたよ、ご苦労様でした。」



「ペーパードームの新しい故郷」表紙

さあ、仙台空港アクセス線で仙台駅へ。そして仙台駅前のバス停で事前待機中の石井修さんと合流し、石巻行き的高速バスに乗り込む。この日は日曜日で満員、バスは30分ほど遅れて石巻駅前に到着。待っていてくださったコンシェルジュ石巻の菊田貞吾、素子さんご夫妻の機敏で的確な指示のもと、二手に分かれて宿舎に向かう。「この人、石巻の達人やな。」

夕食会には、既に1カ月ほど日本の被災地を漂流中のスペイン・カタロニア大学留学生4人（アメリカ、イタリア、香港、台湾出身）が、引率役の小林郁雄さんと共に合流。また、石巻で記録映画を撮影中の青池憲司監督も参加。中国語、英語、関西弁、東北弁などが飛び交い、多国籍・多文化な雰囲気の中、楽しい飲み会になりました。菊田さんの「俺らは海が好きなんだ」という話に、台湾勢は感じ入って聞いていた。



「今回は順調にいきそうや」との期待が高まる初日であった。

「石巻人は海を頼りに生きている。海にNOとは言えないし、永遠に海から離れられない。11万人の人口も今は8万人。復興は始まったばかり」と語る菊田さん。（廖嘉展さんのfacebookから。文・写真とも）

### 3月26日 石巻1日目

さて、2日目は朝10時から、このプロジェクト受け入れのキーマンである「KK街づくりまんぼう」の西條允敏社長を囲んで打合せが始まる。出席者は、台湾組と私たち、小林さんとスペイン組が参加、さらに青池監督も加わる。まず商さんからパワーポイントを使って、これまでの壁画隊の活動を紹介する。壁画隊の活動には、①木の小屋を建て白い壁に壁画を創作する蓋白屋=Build White house活動と、②コミュニティに入って既成の壁などに壁画を描く下郷=Go to the community活動の二つがある。石巻では萬画館の再開に合わせてホワイトハウス活動をし、石巻の市民やアーティストと交流したいと提案した。西條社長は、当初夏の予定だった萬画館の再開は10月になると報告したうえで、「このプロジェクトは大変興味深いし、私の直感で成功すると確信しています。そして、作品を残すことも大事だが、交流の心を残すことがより重要だ」と挨拶をされた。また、参加者から今ある街に市民と一緒に絵を描くような活動から始めてはどうかといった意見も出された。



上は  
打合せ風景。



左は  
説明する商  
さん

午後は、ホワイトハウス建設候補地である中瀬の萬画館周辺を見学。萬画館の周りに張られたベニヤ板にはここを訪れた人達の書き込みで一杯だ。西條さんの案内で周辺の状況を見る。しばらく立っていると寒さがこたえる。それに風が随分強い。ホワイトハウスを組み立てる時も風は要注意だ。



萬画館の付近で説明する西條社長(右)

その後は、西條さん、菊田さんの車に加え、石井さん運転のレンタカーの合計3台に分乗する。まず日和山公園へ。海沿いに広がる津波に押し流された市街地、そして中心商店街や中瀬付近の状況が一望できる。次に、青池監督の記録映画の舞台となっている門脇小学校へ。黒こげの校舎が痛々しい。石巻中心部の被災状況を確認した後、さらに北上川方面に車を走らせ、雄勝硯伝統産業館や大川小学校などの被災状況を見て回った。多くの児童が犠牲になった大川小学校では、誰も多くの言葉を発することはできなかった。



日和山公園から見る中瀬

### 3月26日 石巻2日目

今日は9時30分から副市長に面談する予定。通訳は仙台在住台湾出身の林亭儀さんが駆けつけてくれた。さっそく石巻市役所へ向かう。広い会議室で副市長や市のスタッフのほか、市民文化協会、国際交流協会の方々が出席して下さった。まず、西條社長が切り出しの挨拶のあと、私から訪問の趣旨と共に台湾勢、被災地市民交流会及びスペイン組の紹介、さらに廖さんから石巻で壁画隊の活動をしたいと申し出たのを受けて、副市長から歓迎のご挨拶を頂いた。続いて台湾勢から副市長に記念品を手渡したところで、副市長は他の用件のため退出された。



副市長（右）に壁画隊のポスターを渡す

残ったメンバーで協議を続行。商さんから壁画隊のプレゼンテーションをおこなった後、意見交換。石巻の出席者から被災地のニーズに根差した活動をしてほしいといった意見が出された。詳細は今後具体化に応じて協議しましょうということでした。

この協議の際、廖さんが体調不調のため途中退席するトラブルがあった。病院で検査を受けたところ眼圧が急上昇していたという。点滴を受け、午後は休息。石巻のみなさん、お世話になりました。

昼食後は、仮設商店街に描かれた壁画を見た後、志ある石巻人と支援者で草の根的な復興を目指す「石巻2.0」を訪れる。横浜から来た建築出身の小泉瑛一さんと面談する。続いてすぐ隣のオフィスに駐在している増田拓史さんを訪ねる。彼は横浜石巻文化芸術交流プログラム実行委員会から派遣されたアーティストで、アートによる支援の切り口を模索している。台湾にも縁を持つ彼は、台湾勢と話が弾んだ。

その後は、青池監督のドキュメンタリー「3月11日を生きて～石巻・門脇小・人びと・ことば～」鑑賞のため公民館へ向かう。門脇小学校をめぐる人々の3月11日における行動の証言を繋いだ作品だ。終了後会場に現れた監督は、「その場に臨んだ人たちの言葉に注意深く耳を傾けて欲しい」と強調した。

会場を出て、石巻最大の仮設住宅団地トゥモロウビジネスタウンに向かう。団地の最奥にブラジルからのアーティストが壁画を描いた仮設住宅群がある。折よく在宅だった自治会長の木村渉さんや藤遠正巳さんに話を伺う。住民からも要望を出しながら1週間ほどで描いてもらった。住民も喜んでいて。4月には、第2弾も計画中のことだ。



藤遠さんは、全壊の自宅の柱を再利用してこのベンチを作った。(商さんの facebook から)

いよいよ最後の交流会。会場は中国料理「南華園」。ここの奥さん中山敏恵さんは日本人と結婚された台湾出身の方で、廖さんの付き添いをはじめ今回随分お世話になった。食事中震度4近い地震に驚かさ

れる。しばらくして台湾勢から新しい提案が出された。それは、夏に何人かのアーティストが2か月ほど石巻に滞在して交流を深め、ホワイトハウスの建設は来年春に行うとの案。それをめぐって様々な協議が始まった。しかし、西條社長も今ここで決めかねる感じだ。結局、双方持ち帰って、4月末を目途に実施時期などを固めましょう、ということになった。

ともかくもスタート台についたと言える。

垂水さん「先ほどの震度4は歓迎のしるし」とのジョークに、  
商さんは「オーノー」 西條社長は「雨降って地固まる」  
(廖嘉展さんの facebook から。文・写真とも)



### 3月28日 大槌ベースを目指して

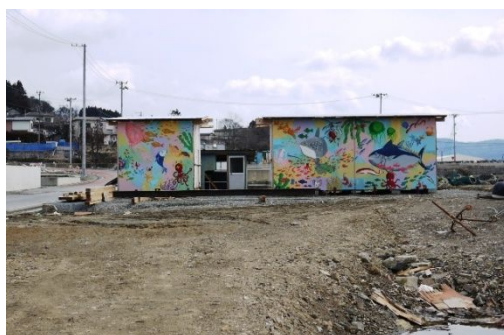
今日は石巻に別れを告げ一路北上、昨年訪れた被災地を再訪しながら大槌ベースにたどり着く強行軍だ。西條社長のお見送りを受け、再検査のため病院へ行く廖さんを除いてマイクロバスに乗り組む。途中、スペイン組をピックアップ、まずは女川へ。

女川の訪問先は昨年もお世話になった商工会で、復興連絡協議会の鈴木敬幸さん、黄川田さんが待っていてくださった。こちらのメンバーを紹介すると、廃棄物の処理場の塀に小学生の絵を展示したところがあるということで、さっそく現場へ。その後、坂茂氏の提案・設計による3階建仮設住宅を見るため、スポーツ施設のある高台へ向かう。コンテナを交互に積み上げたこの3階仮設は、なかなかのアイデアと見受けた。ここで、検査の結果、医師の許可がでた廖さんが菊田さんの車で到着、合流した。付き添ってくださった中山さん、感謝です。さらに海に向かった高台に建つ市民病院へ立ち寄った後、次の志津川へ出発した。

志津川に着いたのはお昼過ぎ、工藤忠清さんに電話で連絡すると仕事場から駆けつけてくださった。足元はゴム長靴。お忙しいところお邪魔しまーす。「いや、昼休みですから」と工藤さん。被災地に建つ番屋を見た後、最近オープンした南三陸さんさん商店街へ案内いただいた。かなりにぎわっている様子に、気持も明るくなる。昼食をとった後、次の長洞を目指す。



坂茂氏が提案・設計した3階建仮設住宅



壁画のある番屋

長洞では、村上誠二さんご夫妻が待っていてくださった。廖さんが最近どうですかと聞くと、村上さんは「今、二つの事に取り組んでいます」と近況の報告をされた。一つは公営住宅を村の中に導入すること。高台移転の土地は目途がしたが、公平性・平等性により集落ごとの公営住宅は建てないという市の方針がある。二つ目は、水産加工品の仮設工場をつくることで、資金確保などに取り組んでいる。今回も壁を乗り越えながら、一步一步進んでいく長洞の状況を確認できる訪問だった。

帰り際、高知から届けられたという「支援弁当」が集会所へ持ち込まれた。仮設住宅の方に配りきれなかった分だという。活用いただけるなら、持ち帰られませんか、と村上さん。「えー、いいんですか。今日行くところは、若いボランティアがたくさんいますから十分活用できます。」と、遠慮なくバスに積み込んで、最終地点である大槌ベースへ向かった。

大槌についてころには、とっぷり日は暮れていた。津波で流され何も無い漆黒の広がり、その中に建つ大槌ベースを探し出すのに少し手間取る。到着した時、神田神父と吉富志津代さんはまだ着いてない。日比野純一さんとベースのスタッフたちが迎えてくださった。食堂に入って、まず地震時の避難心得など注意事項の説明を受ける。ちょっと緊張する。食事時間は既に過ぎており、何もありませんよとのこと。

いえいえ、弁当を持参してますから大丈夫と答える。「良かった。でも数はあるかな？」一、二、三、…。えーっ、一人分足りないよ。すかさずベジタリアンの李安慈さんが、手持ちの食料を示し、「私は弁当食べられません。これで大丈夫。」という。じゃ、ぴったりや。これはもう、神のご加護というほかない調和。シラス丼にカツオのたたき付き。いただきまーす。誰も一粒残さず平らげる。美味しかった。「ありがとー、高知の皆さん。」

ところで、部屋は二人部屋が一つとあとは大部屋の和室。部屋割は、ちょっとしたパズルゲーム。藤岡さんとスペイン組の女性一人は二人部屋で、残りは大部屋へということかどうか。とすると、大部屋は二組の夫婦と3人の独身(多分)女性、それに老人一人(70歳超えると性別なし)となる。これも絶妙の調和やな。「没问题！」

大部屋で布団が敷き終わった頃、神田神父と吉富さんが到着した。間もなく大部屋に現れた神父を囲んで懇談が始まる。「ペーパードームの新しい故郷」を手渡され、「ええな一、ええな一」を連発する神父。あれやこれや話題は尽きない。この大槌ベ



移転候補地を示しながら、説明する村上さん



みな大満足。  
ごめんね、ベジタリアン李小姐。(正面)



神田神父(左から3人目)日比野さん(左端)らと。皆さん、少し眠そう。(写真 廖さんの facebook から)

ースの壁面を壁画隊に飾ってもらったらどうか。明るくなるし、目印にもなる。一度関係者に打診してみましよう、と神田神父。また、新故郷から神田神父に寄付金が手渡された。藤岡さんからもハープ演奏会での収入の一部を神父に。「有難うございました。大切に使います。」

最後に、記念写真。はい、チーッ、いや、おやすみ。

### 3月28日 一路、仙台空港へ

朝8時30分神田さんやスペイン組に見送られ、バスで一路仙台を目指す。高速道路をひた走る。うっすら雪化粧の山々を見て台湾組は盛んにシャッターを切る。さすが最終日、寝込む人が多い。突然、蔣さんの大声が響く。「皆さん、今日は重要な方の誕生日ですよ。Happyバスデー、廖先生！」そう、今日は廖嘉展の「生誕50周年」でした。どこで買ったのか、商さんから可愛いカボチャケーキをプレゼント。「おめでとう！」「生日快樂！」



廖さん「おめでとう！」「生日快樂！」

午後1時15分ころ、ほぼ予定時間に仙台空港に到着した。この2日間、直線距離でも300キロのバスの旅、お疲れさま。さあ、さあ、チェックインカウンターへ。皆さん、ここへ並んで下さい。証拠写真が必要です。「??」私は、天川さんに無事送り届けた報告をする必要があると説明すると、廖さん、顔さん「おー、天川秘書長！了解！」。

それでは、皆さん、再見！



左から 商毓芳、顔新珠、廖嘉展、蔣耀賢、李家綺、李安慈の皆さん